

藤 沢

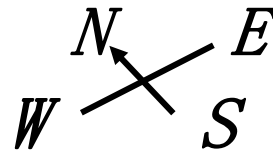
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2022年5月1日

第336号



主な記事

- ・磯遊びでリフレッシュ
- ・県はネオニコ農薬散布中止を
- ・IPCC報告と課題
- ・放射能測定値

<http://econet2015.sakura.ne.jp>事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ F A X 0466-87-4922

戦争と憲法 9 条

アメリカと NATO が 20 年間も、無意味な殺戮を続けてきたアフガニスタンからやっと撤退した。その余燼(よじん)さめやらぬ内にウクライナでの戦争である。

振り返れば第二次大戦後も、戦争は少しの休みもなく繰り返されてきた。だからこそ私たち 9 条の会は今も微力であり、無力かも知れないが NO WAR と言い続ける。武力で平和は作れない。軍事に軍事で対抗するのは戦争を誘発するだけなのだ。死を賭して闘うのではなく、命を守ること生き延びることが大切だ。だから即時の停戦を私たちは求める。誰が首相、大統領になっても戦争をさせない。それが憲法 9 条の力である。

戦争は最大の環境破壊である。この戦争もそれだけを明確に示している。稼働中の原発のある地域で、戦争をすることがどれほど危険で無謀なことか。福島原発事故を経験した私たちは知っている。日本は海岸線に 54 基もの原発を配置している。この状態を放置して敵基地攻撃能力、軍事費倍増など笑止である。人の住む、そして多くの生物植物の生きる大地を、水を、海を、空を破壊しないために、即時の停戦を求めよう。

ウクライナのゼレンスキー大統領の声は世界に拡散するのに、パレスチナの人々の悲鳴は届かないのは何故か。今も国軍による殺人が続いているミャンマー、世界から忘れられているイエメンの惨状をなぜ止められないのか。世界は偏っている。ある地域、国の人々の死には世界は声を上げる。別の地域、国では如何に悲惨な死が累積しても、なかったことにされる。世界は公正ではないのだ。

日本国憲法は公布 75 年を迎えた。一方でウクライナでの戦争を利用して、敵基地攻撃能力だとか、相手国の中枢をも攻撃すべきだとか、核を持て、軍事費を 2 倍にしろ、などと恥知らずの安倍晋三が声高に喚いている。いまや命を省みず戦争に参加するのが美しいことでもあるように、日本のマスメディアは連日煽り立てている。だがこの間何度もの政治危機の中で、戦闘の渦中で一人の戦死者も出さず、一発の銃弾も撃たずにやってこられたのは、ひとえに憲法 9 条の力である。そのことを私たちは繰り返し世界に伝えよう。(ふじさわ・九条の会 吉塚晴夫)



フジ 日本大学で

磯遊びで リフレッシュ

4月2日。「江ノ島でリフレッシュ」が開催された。「福島の子どもたちとともに湘南の会」が今年初めて企画した日帰り江ノ島リフレッシュは、天候に恵まれ、大成功に終わった。

参加者は大人5名、こども3名。スタッフを入れて17名。スタッフお手製の折り紙ワッペンを胸に、弁天橋を徒歩で渡る。前日の雨のおかげで空気が澄み、富士山を眺めながらの散歩は最高だった。

ヨットハウス向かいの聖天島公園で、環境活動家の武本匡弘さん、洋子さんと合流し、江ノ島磯観察のはじまり！ 武本さんのユーモアたっぷりの語りに子どもも大人もすぐに魅了される。

磯に降りてからは、武本さんのお話に誘われ、一生懸命水の中に目を凝らす子どもたちは正に真剣そのもの。大人たちにとっても、磯辺のさまざまな生物の営みに触れ、岩にはりついた海藻を食べながら(笑)、自然の豊かさに驚愕し、改めて環境危機について考える、大変貴重な体験となった。



ヨットハウスでの昼食後は懇親会。話題は原発からウクライナに至るまで様々で、よい時間を過ごせたと思う。参加の子どもたちはスタッフ指導のもと、紙飛行機作りに挑戦。自作の飛行機を飛ばす子どもたちを見ながら、会はお開きとなった。

短いながらも、江ノ島の自然に触れ、フクシマの問題に心を寄せている方々と様々な話をすることで、自分たちが守るべきもの、大切にしたいものを再認識できた、そんな一日になったと思う。

ご参加くださった皆さん、そして武本匡弘さん、洋子さんに改めて感謝申し上げます。(藤岡みどり)

県はネオニコチノイド農薬散布中止を！

湘南海岸砂防林、藤沢から大磯までの11キロ85ヘクタールへの、ネオニコチノイド農薬散布は、5月連休明けからスタートします。

私達は市議会、県議会、藤沢市長、神奈川県知事へ陳情をしました。結果は市議会県議会とも却下され市長、県知事からはなんらなしのつぶてで、受け取ったかどうか不明です。市、県議会は、賛成は共産党だけで、否決になりました。

○ 陳情の概要：ネオニコチノイドは子供達の脳神経に影響することが研究者、医師より警告されています。EUでは厳しく禁止規制されています。本年2月9日NHK7時のニュースにて、子供の学習障害、自殺が増大しているとの報道がありました。特別支援教育を受ける学童は藤沢市でも増大しています。散布地点の近く多くの小中学校があります。

研究者から警告を受けた環境省、農水省、文科省、厚労省は「住宅地に近い森林における病虫害防除については、定期的に農薬を散布することを廃し、被害が発生した場合に被害を受けた部分の剪定や捕殺、樹幹注入等により防除を行なうよう最大限努めること。」このように指導通達をだしていますが、県の土木事業所(散布を行なう部所)は認識しておらず知りませんでした。

○ 藤沢市公園課へ出向き市内公園の松の木の問題について聞きました。市の答えは、市の公園には、一切農薬は散布していない。定期的にも農薬散布は行なっていないとの返答でした。問題があったらその時そのものに対してのみ何らかの方法で解決を図るとの事で正に農水省、環境省の通達どおりの管理方法を行なっていると感じました。市は農薬管理はしていないのです。改めて海岸近くの松の木を観察しますと、その見事な立派な力強い松の木に驚きました。鵜沼松が岡公園には松の歴史の経た大木が、なんと150本以上そびえているのです。松枯れ現象も見かけません。

農薬散布は取り返しのつかないリスクを与えています。県は即時農薬散布を中止してください。

(湘南海岸砂防林への農薬散布の中止を求める会

伊藤直子 naokoito@jcom.zaq.ne.jp)

気候変動を抑えるため、今すぐ行動を 大幅な排出削減対策が急務

国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、温室効果ガスの排出削減対策について検討した第3作業部会の報告書(排出削減対策)を4/5に公表した。この報告書は、今世紀末に1.5℃に抑えるには、温室効果ガスの排出量が遅くとも25年までにピークに達し、減少に転じる必要があるとしている。

これまでの対策を超える政策をとらなければ、今世紀末までに気温上昇は3.2℃に達する。

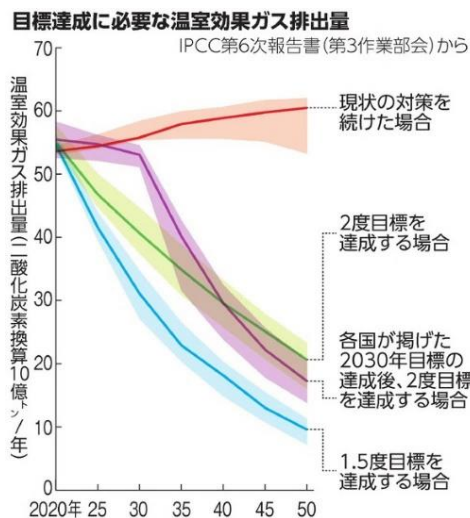
昨年8月に公表された第1作業部会の報告書(自然科学的根拠)は、「人間の影響が大気、海洋及び陸域

を温暖化させてきたことには疑う余地はない」と断言した。世界の平均気温は産業革命前と比べ既に、約1.1℃上昇しており、1.5℃上昇すれば10年に一度起きる極端な気象現象が増えると予測している。

今年2月に、第2作業部会の報告書(気候変動の影響と適応)は人為起源の気候変動で極端な気象現象の頻度が増え、「自然と人間に対して広範囲にわたる悪影響、損失と損害を引き起こしている」と断定した。今後、10年間の社会の選択や温室効果ガス削減に向けた対策が重要で、対策が遅れると後戻りできなくなると警告。

第3作業部会の報告書(排出削減対策)は、エネルギーをはじめ産業、輸送、建物、農業、土地利用、市民の行動などすべての部門で「急速かつ大幅に、即時に排出量を削減すること。すべての化石燃料の使用を大幅削減、省エネの徹底と再エネへの転換を求めている。

これで3つの作業部会の報告書が出揃った。これらは査読済みの学術論文をベースにエネルギーや経済だけでなく、幅広い分野の専門家を結集して作成。特



に、政策決定者向け要約に関しては厳しい査読と議論を経て、現時点で科学的に信頼のおける内容となっている。

9月にはこれらをまとめた統合報告書が発表される予定で、11月行われるCOP27に議論が引き継がれる。後は、政策決定者の決断あるのみ。昨年、COP26のグラスゴー合意で、全ての国が2030年目標を今年中に強化することを決めた。しかし、IPCCの最新の報告では、今の世界の政策水準ではパリ協定で掲げた1.5℃目標の実現は達成できないことが分かっている。

この政策決定者向け要約に応えるには、世界で沢山のCO2を排出している国々(中国、米、インド、ロシア、日本等)の政策決定者は2030年目標のさらなる引き上げ、脱炭素に向け「省エネ」と「再エネ」を最優先にしたエネルギー政策を加速させる責任がある。

私たち市民は、科学者達の提言に応える政策の実現を支える行動が必要で、藤沢市の「気候非常事態宣言」では「気候変動の危機的状況を市民・事業者・行政などが共有し、協働して取り組む」ことが求められている。(宮地俊作)

気候危機アクション 藤沢でも

アースデイは1970年アメリカで4月22日を「地球の日」とであると宣言、誕生しました。「気候危機アクション藤沢」ではこの日に「気候時計」を示したプラカードを掲示し、声明を印刷したチラシを配布してアクションしました。

気候時計は「あと7年と90日」として温室効果ガス削減目標までの時間を計算したものです。また、チラシの声明は藤沢市が気候非常事態宣言を出した日から一周年を記念して発表したものです。

気候危機は待ったなし!の標語通り、残された時間は刻々と短くなり、そのことを市民にアピールすることとしました。

当日はロシアのウクライナ侵攻にも抗議する青と黄色の腕章などを付けて市役所前の通路で行いました。またこの行動を続けていきたいと話しています。

(NGO 気候危機アクション藤沢)



コロナの現状 ⑪

第6波のオミクロン株の変異株は依然猛威をふるい続けている。藤沢市と藤沢市医師会はワクチン接種のため、コロナ対策強化に向けて12月9日に協定し、市民の検査、治療ニーズに応え、医療が必要な市民を確実に医療につなげていくことで、万全な地域医療におけるコロナ体制を整備し、引き続き自宅療養死ゼロをめざすこととした。

医療従事者、高齢者などは3回目のワクチン接種に取り組んでいる。2回目接種後6ヶ月後には3回目の接種案内が届く。ワクチンは市内指定の医療機関の他、集団会場でも受付、予約なしでも接種できる。ワクチンによる発熱は接種後1～2日以内に起こることが多く、水分を十分に摂取し、必要な場合は解熱鎮痛剤を服用するなどして、様子をみることになる。藤沢市コロナワクチン専用コールセンターへ電話すると会場や相談に応じている。

藤沢市は5～11歳の小児に3月7日から特例承認としてワクチン投与を開始した。12歳になるまでに2回接種し1回目と2回目との間は3週間あける。小児の感染者は症状の多くは軽症だが、入院等が必要な小児も発生しているという。また、基礎疾患のある小児は重症化リスクが高いといわれているので注意が必要。（荒井）



放射能測定値(市民計測)

(HORIBA Radi) 単位 (μSv/h) 地上50cm

4/5 晴	市役所分庁舎前	0.079
4/5 晴	分庁舎1Fロビー	0.076
4/5 晴	本庁舎西入口	0.056
4/5 晴	本庁舎東入口	0.053
4/5 晴	本庁舎1Fロビー	0.085

ECONET INFORMATION

▲今こそ 憲法9条を世界に

5月7日(土) 13:30 開演

市民会館小ホール 参加費¥500

高田健さん(総がかり行動実行委員会)

武本匡弘さん(気候危機対策ネットワーク)

主催ふじさわ・九条の会 問合せ 909-9239-0864

▲日本のSDGs

高橋真樹さん講演(環境ジャーナリスト)

5月8日(日) 14:00- 藤沢市民会館

主催 気候危機対策ネットワーク エコストア
パパラギ \1000 申込み 0466-50-0117

▲平和行進 核兵器のない世界の実現を願って

5月16日(月) 10:00 集合

藤沢市役所→郵便局→柳通り→年金事務所解散
ご一緒に歩きましょう

▲けずる絵 ひっかく絵

山内若菜さんほかの絵が展示されています

4/9～6/12 平塚市美術館

一般 200円 高大生 100円



▲藤沢エコネットから

総会 5月30日(月)20:00-

Zoomにより行います

参加できる方は申込みをお願いします

申し込み後にメールします

e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

【ゆうちょ銀行 加入者名 藤沢エコネット

【口座番号 00240-9-46501】

◆事務局会議 5月7日(土)

10:00～六会公民館

《編集後記》市の花、フジが見頃を迎えている。引地川フジ史跡ロード、境川フジ水辺ロードとフジロードのマップもある。花言葉、優しさ、歓迎、決して離れない等に誘われて歩いて見よう。

ウクライナでは500万人以上が国外に避難し、周囲国は停戦交渉より武器援助を優先し、力でロシアを抑え込もうとしている。が、長期の泥沼戦争、あるいは核戦争にも発展しかねない。武力には武力を、は破綻した論理と言わざるをえない。1日も早い平和を！(A)